

報告・国際交流センター運営委員会

国際交流センター長 大津 幸一

震災発生とともに国際交流センターに真っ先に課せられた使命は、当然ながら、在学中の中国からの留学生の安全確保と安否確認であった。想定外のこととはいえ、我が国に勉学に来て、もしものことがあれば、受け入れた本学との関係のみならず、大げさな言い方をすれば、日中の友好関係にも少なからず影響を及ぼしかねない。できるかぎりのことをすべく、当時の中込真二センター長とスタッフは、あらゆる情報を手がかりに行動をし、個々の留学生に対応した。

国際交流センター

1. 震災時における外国人留学生への対応と、震災後の各留学生の動向

3月11日当時、本学には12人の外国人留学生が在籍していた。いずれも中国からの留学生で、内訳は、私費留学生9人、温州大学との交換留学生3人であり、うち、石巻に在住していた学生は10人、仙台在住の学生は2人である。

大震災発生とともに、中込真二国際交流センター長のもと国際交流センターが緊急に取り組まなければならないことは、当然のことながら留学生の安否確認と、それにともなう個々の学生たちへの対応であった。

以下、それぞれの学生について、安否確認および震災後の対応・動向について記す。

【大学内で被災】 3人

Aさん（機械工学科4年）

震災時、大学内にいた。そのまま学内に避難、職員が直接無事を確認した。

3月17日 中国大使館がチャーターしたバスで新潟に移動、その後東京に滞在。日本で就職が決まっていたため帰国しなかった。

B君（機械工学科4年）

震災時、大学内にいた。そのまま大学に避難、職員が

直接無事を確認した。

3月17日 中国大使館がチャーターしたバスで新潟に移動、その後大阪の親類宅に滞在。日本で就職が決まっていたため帰国しなかった。

Cさん（経営学科4年）

震災時、大学内にいた。そのまま大学に避難、職員が直接無事を確認した。

3月17日 中国大使館がチャーターしたバスで新潟に移動、その後大阪の親類宅に滞在した。3月25日に中国に帰国、4月25日に日本に戻り弘前大学大学院に進学した。

【石巻市内で被災】 6人

D君（生物生産工学科4年）

震災直後、アパート近くの避難所（石巻市立住吉中学校）に避難していた。B君が、当日夜に電話で無事を確認。4日目に避難所に迎えに行き大学に移動、職員が直接無事を確認した。

3月17日 中国大使館がチャーターしたバスで新潟に移動、帰国せずその後、香川大学大学院に進学した。

Eさん（経営学科4年）

震災直後、石巻市内の避難所に避難していた。B君が当日夜に電話で無事を確認して、その後職員がア

パート周辺の避難所を探したが会えず、6日目に電話で連絡がとれた。

3月18日 中国大使館がチャーターしたバスで新潟に移動、その後東京の友人宅に滞在した。3月29日に中国に帰国。

Fさん(経営学科3年)、および温州大学交換留学生のGさん(情報電子工学科)・Hさん(生物生産工学科)・I君(経営学科)

震災直後、アパート近くの避難所(石巻消防本部)に避難していた。当日夜に職員が避難所で直接無事を確認した。中込センター長も3月14日に避難所で4人と面会している。その後、Fさんのみ3月16日にみやぎ生協蛇田店に移動。

3月17日 4人は中国大使館がチャーターしたバスで新潟に移動、数日後中国に帰国。5月中旬にHさんを除いた3人が石巻に戻った。

【仙台で被災】 2人

Jさん(経営学科4年)

仙台在住で、震災から5日目にゼミ担当教員が電話で無事を確認した。

3月中旬 中国大使館がチャーターしたバスで新潟に移動、数日後中国に帰国。神奈川県で就職が決まっていたため日本に戻った。

Kさん(経営学科3年)

仙台在住で、震災から5日目にゼミ担当教員が電話で無事を確認した。

3月中旬 中国大使館がチャーターしたバスで新潟に移動、3月18日に中国に帰国した。

4月6日 仙台に戻った。

【東京に滞在】 1人

L君(情報電子工学科4年)

震災時、就職活動のため東京に滞在していた。B君が当日夜に電話で無事を確認して、5日目に職員も電話で無事を確認。日本で就職活動中だったた

め帰国しなかった。その後日本で就職した。

2. 新学期開始後の動向

5月12日の辞令交付と両学部教授会から実質的な新学期が始まったが、諸般の事情により、新体制でのセンター運営委員会が開催されたのは8月になってからであった。

8月24日に開かれた第1回委員会では、平成23年度のセンターの実施状況について次の点について確認がなされた。

- (1) 温州大学からの夏期短期研修生受入れ:温州大学より辞退の申し出があり中止
- (2) 夏期短期海外語学研修(シアトルパシフィック大学):震災により実施が困難と判断し中止
- (3) 温州大学サマープログラム(温州大学):東日本大震災により実施が困難と判断し中止
- (4) 温州大学からの交換留学生受入れ:温州大学に留学希望者がなく中止
- (5) 温州大学への交換留学生の派遣:実施予定

また、平成22年度温州大学からの交換留学生については、震災によるやむを得ない措置として、授業期間の短縮と単位認定(後半)専門科目を受講するため全学教務委員会・教務委員会・教授会に諮ることとした。また、他学部の科目履修については、教務委員会及び教授会に諮ることとした。

担当事務課長より、国際交流室をしばらくの間共創研究センターが使用することになった旨報告があった。現在は石巻赤十字看護専門学校が使用。

また、10月28日に開催された第3回委員会においては、事務部より、平成24年度温州大学への交換留学生の募集について、10月28日(締め切り日)の段階で、震災の影響で応募者がいないとの報告を受け、応募締め切りを11月11日まで延長することが承認された。なお、今後交換留学生を募集する際には、留学経験者の手記等で留学のメリットをアピールし

1 その時、大学は

2 大学の被災状況

3 地震直後からの大学の対応

4 地域社会への貢献

5 各学部・委員会などの対応・動向

6 建物と地盤について

7 震災を振り返って

資料編

各学部・委員会などの対応・動向

てはどうかとの意見が出された。

その他、12月21日、ロサンゼルスの特ラスキ Foundation Laboratory主催による被災地見学ツアーの一環としてアメリカ人学生20数人が来学することについて国際交流センターがその受け入れの準備から当日の企画運営にあたることが承認された。また、事務部より、10月27日、外務省国際報道官室が招待した外国人記者(アジア10か国)が本学を訪問し、中国人留学生の閻虹雪が震災体験取材を受けた旨報告があった。

3. 結びに

今回の東日本大震災で、12人の中国からの留学生全員が無事であったことは、何よりも幸運であった。特筆すべきは、中込前センター長、各教員および担当の事務職員の連携による敏速な安否確認とサポートである。平成23年度は、上記のように温州大学からの申し出により、短期研修生および交換留学生受け入れやサマープログラムは中止となり、また夏期短期海外語学研修も中止を余儀なくされ残念な結果になったが、次年度に希望をつなげたいと願う。

1	その時、大学は
2	大学の被災状況
3	地震直後からの大学の対応
4	地域社会への貢献
5	各学部・委員会などの対応・動向
6	建物と地盤について
7	震災を振り返って
	資料編